

聖徳大学収蔵名品展

利根山光人

油彩画の世界



『無限』 1980年 H54.0×W104.5 cm

この油絵を基に製作した川並香順記念講堂の緞帳(どんちょう)は、1981年に第6回吉田五十八賞(建築美術部門)を受賞した。

ごあいさつ

聖徳学園では、教育理念の一つである実物教育を積極的に進めるため、文学、音楽、美術、工芸等に関する聖徳学園の創立者である川並香順先生は、教育の基本として、何事も“本物に接すること”が大切であり、校舎は箱を建てるだけでなく、芸術的に香り高い環境にしなければならないと説いておられました。それを実行に移されたのが前学長の川並弘昭先生です。そして、これに賛同されたのが、画家であり、聖徳学園高等保育学校（現 聖徳大学幼児教育専門学校）で教鞭をとられ、その後、聖徳学園短期大学（現 聖徳大学短期大学部）保育科の教授になられた利根山光人先生です。

利根山先生は聖徳学園短期大学新校舎建築に際して、設計や色彩計画等の企画に参画し、芸術的な教育環境づくりを目指しました。学園内には魅力あふれる壁画がいたるところに設置され、「聖徳学園は美術の園(その)」と称されるまでになりました。

利根山先生は1973年に紺綬褒章を受章され、1981年には川並香順記念講堂の緞帳(どんちょう)により第6回吉田五十八賞を受賞、さらに1985年には第17回日本芸術大賞を受賞されました。また、メキシコとの文化交流にも力を注ぎ、メキシコにおける最高文化勲章であるアギラ・アステカ・ブラーカ章を受章されています。

今回は、聖徳学園で収蔵している利根山作品の中から油彩を中心に展示いたします。

感動を全身で表現し、あふれる情熱で作品に魂をふきこむ太陽の画家、利根山光人先生の作品を心ゆくまでご鑑賞ください。

平成29年3月30日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川並弘純



『ドン・キホーテ』 1987 年 H116.0×W90.0 cm



『ミロ風』 1993 年 H52.0×W40.0 cm



『思案』 1993 年 H91.0×W60.0 cm



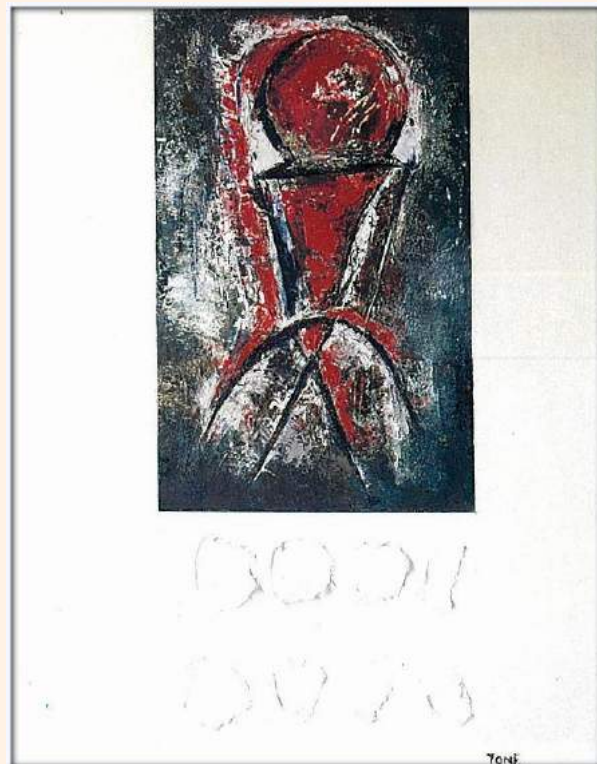
『早春賦』 H32.0×W52.0 cm



『飛ぶ鳥』 H26.0×W34.0



『野馬追い』 H26.5×W21.5 cm



『古代人』 H90.0×W72.0 cm



『闘牛』 1985 年 H30.0×W40.0 cm



『さかな』 H22.0×W15.0 cm

《このほかの主な展示作品》

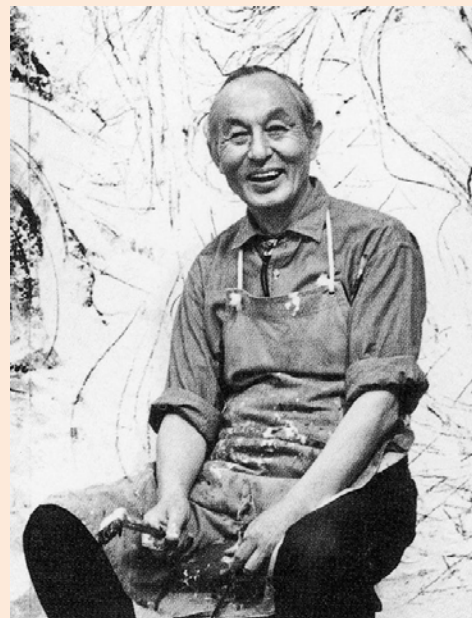
- 『古代の鳥A』 1971 年
- 『あかい空』 1986 年
- 『狂気』 1887 年
- 『主従』 1988 年
- 『インディオの村』
- 『母子』

(展示作品は変更することがあります。)



利根山光人先生の略歴

1921(大正 10)年 [0 歳]	9 月 19 日茨城県結城市に 6 人兄弟の末子として生まれる。
1939(昭和 14)年 [18 歳]	早稲田大学高等師範部国語漢文科に入学。
1943(昭和 18)年 [22 歳]	早稲田大学高等師範部国語漢文科卒業。 静岡の農業学校に教師として勤める。
1945(昭和 20)年 [24 歳]	1 月 栃木県烏山女学校に国語の教師として勤める。 10 月 彌恵子夫人と結婚。 烏山女学校を退職、上京。
1954(昭和 29)年 [33 歳]	イリゼ・グリリー女史により、ジャパントムズその他で大きく取り上げられる。 この頃教員生活から去り、画業に専念する。 「利根山光人石版画集」刊行。
1955(昭和 30)年 [34 歳]	日本版画協会会員になる。5 月～古代遺跡の美を求めてメキシコに渡る。
1959(昭和 34)年 [38 歳]	メキシコからの帰途、ヨーロッパ各地、インドを廻る。その間にアルタミラ洞窟、ラスコー洞窟などを見学。聖徳学園高等保育科の講師になる。
1960(昭和 35)年 [39 歳]	マヤ拓本採集のため、秘境ボナンパク及びパレンケ遺跡、マヤ遺跡を訪ねる。
1962(昭和 37)年 [41 歳]	聖徳学園短期大学キャンパスの建築にかかわる色彩計画、装飾、壁画を手がける。
1965(昭和 40)年 [44 歳]	聖徳大学 1 号館玄関に聖徳学園壁画第 1 号としてモザイクタイル壁画「若さ」制作。 聖徳大学 6 号館、陶版壁画「太陽」制作。これより先、聖徳大学、附属学校に次々と壁画、レリーフを制作。
1967(昭和 42)年 [46 歳]	パレンケで発見されたマヤの秘宝「ヒスイのマスク」の国外出品の特別許可をメキシコ大統領より得る。後に日本における最初のマヤ文明展（日本橋三越）（1972.8.8～20）を実現する。
1970(昭和 45)年 [49 歳]	メキシコ政府よりアギラ・アステカ・エンコミエンダ章受章。 紺綬褒章受章。朝日新聞連載、松本清張作「火の回路」（6.16～1974.10.13）の挿絵担当。イランに取材旅行。
1972(昭和 47)年 [51 歳]	9 月愛媛新聞主催「利根山光人の世界」いよてつ そごうで開催。
1973(昭和 48)年 [52 歳]	聖徳学園川並記念講堂の緞帳「無限」に対して、第 6 回吉田五十八賞受賞（建築美術部門）
1979(昭和 54)年 [58 歳]	聖徳学園セミナーハウス山中湖荘、モザイクスタイル「宇宙」、ステンドグラス「夜」「昼」制作。3.2～29 メキシコ訪問。12.23～31 中国訪問。
1981(昭和 56)年 [60 歳]	6.19～7.1 スペイン訪問。7.15～8.3 フランス訪問。
1982(昭和 57)年 [61 歳]	5.17 活力ある文明批評を内蔵した幅広い造形活動に対して、第 17 回日本芸術大賞受賞。7 月から 10 月にかけて、メキシコ、インド訪問。
1983(昭和 58)年 [62 歳]	インド訪問。5 月、メキシコ政府より再度最高文化勲章アギラ・アステカ・プラーカ章受章。
1985(昭和 60)年 [64 歳]	インド、メキシコ訪問。
1987(昭和 62)年 [66 歳]	「第 3 回住まいの絵画コンテスト」（朝日新聞社主催）の審査委員長を務める。
1988(昭和 63)年 [67 歳]	1 月中国訪問。5 月スペイン訪問。
1989(平成 1)年 [68 歳]	9 月ロンドン訪問。
1990(平成 2)年 [69 歳]	3 月中国訪問。9 月メキシコ、アメリカ訪問。11 月再び中国訪問。
1991(平成 3)年 [70 歳]	病床にありながら、聖徳大学クリスタルホールに制作する壁画のスケッチにとりかかる。4 月 14 日心不全のため逝去。享年 72 歳。
1992(平成 4)年 [71 歳]	
1994(平成 6)年 [72 歳]	



平成29年3月30日(木)～10月21日(土)

午前9時～午後5時（休館 毎日曜・祝日と学事日程による休業日）

聖徳大学8号館1階 利根山光人記念ギャラリー

JR常磐線・JR乗り入れ地下鉄千代田線・新京成線とも松戸駅下車、
東口より徒歩5分 （学内に駐車場はありません）